石橋多聞著

飲み水の危機

日常われわれの生活にあまりにも密接な関係を持つものは，たとえ，それが生活に欠くべからざるものであっても，その価値が忘れ去られていることが多い。水道水は，まさにこれにあてはまる。本書は，筆者が序文で「飲み水の危機について率直に現状を認識してもらうと同時に，水問題の問題点を指摘し，国民に水の再認識を訴えようとする」と述べているように，水道水の価値を再認識させ，それが直面している質量両面における危機を知らせることを目的とした，国民に対する啓蒙書として書かれたものである。

「1. いのちの水」という水の重要性にまつわる逸話についての書き出しにはじまり，「3. 都市は水を求める」から「9. 水資源開発を急げ」に至る章において，わが国の水資源問題にメスを入れ，「あたかも水資源に恵まれた国土であるかのように言われていたのは誤まり」であり，「15 年先の 1985 年においてさえ，わが国の中枢的な人口密集地区では，工業用水はおろか，生活のための上水道用水すら確保が困難という事態が予想される」と指摘している。

また，「10. 下水を飲まされる」から「14. 水道水の水質」までの章では，水質汚濁による水道水源の汚染問題を取り上げ，「下水化した河水が浄水場で浄化されて市民の生活用水に化けて飲まれている」という情況にまでなってきているが，これは「都市政策のもろもろのひずみ」や「企業側の工場排水の放出に対する無関心さ」に起因するものであって，公共水を汚濁から守るためには，「被害者である国民の利益を守る立場にたった行政」が必要であると述べている。さらに，「15. 雑用水道」および「16. 海水の淡水化」においては，水源不足の新しい対応策が紹介されている。

目次からみても明らかなように，一般人に読まれることを前提にして，全体的に平易な文体で書かれてはいるが，豊富な専門的データを駆使した部分も多く，一般土木技術者の要求にも十分耐えうる内容を持っている。一般人には多少難解である反面，専門的には少々つっ込み方が足りないというまどろっこしさはあるが，新鮮さを持った，意欲的な著作といえよう。 [S]

東大出版会刊，B 6 判・262 ページ，定価 480 円

木本正次著

砂の十字架 —鹿島人工港ノート—

新しく開通した高速道路の写真をみる，供用開始になった橋梁をみる，荘大なアーチダムの記事をよむ，こういうときわれわれ土木技術者がまず思い浮べることは，施工途中で当事者が直面したに違いない技術的な困難さ，採用されたに違いない新しい機器・工法・設計法などではなかろうか。

本書は出版後 1 年をへて多くの方々の目に触れていると思うが，鹿島港の構想がたてられ，さまざまな障害を克服して，ついに開港を迎えるまでの経緯を物語りにしたものである。

知事が県民のための県政を模索しているとき，鹿島に大工業基地を建設することを思いつく。知事は港湾建設の専門家に鹿島に工業港ができるかどうか打診する。専門家はいう「技術的には可能です。だが開発に必要なのはあなたの熱意です」と。知事は各方面の説得に東奔西走する。立地企業との調印もおわった。中央官庁の協力もとりつけた。難関は用地買収だった。知事は地域住民の犠牲のうえに工業開発を行なうことを好まず，農工両全の理想をかかげる。このため知事の命を受けて，開発地域の用地買収にあたる県の職員は，きりきり舞いを演ずる。そこに，一人のすぐれた実務家が登場する。彼は知事の理想を実務家の頭で翻訳し現実的な方策を見出して用地買収を強力に押し進めてゆく。一方工事も順調に進み，ついに開港式を迎える。総理大臣もヘリコプターで飛来した。はれやかな舞台である。知事の理想は多くの人の熱意に支えられついに成熟したのである。

このような筋書きで話が進んでゆく。

これを読んだ人は，鹿島港の建設が大変だったこと，これは多くの人の熱意が実現したこと，土地買収がこのプロジェクトの難関だったことなどの印象を受けるだろう。

著者は彼にとってわかりやすいことを書いたのだろう。技術的なこともでてくるが，これはわれわれにとってはほとんど意味をもたない。われわれは別の場でもっと詳細な技術上の記述に触れる機会が多いからである。著者の鹿島港建設に対する評価も，彼にとってわかりやすい面に集中している。これは，われわれ土木技術者が鹿島港をながめたとき主として諸問題に眼を向けるのと同じである。

本書がわれわれに意味をもつとすれば，それは鹿島港のプロジェクトを実現してゆくために，直接建設にたずさわった土木技術者以外にも，重要な事柄を演じた人達，たとえば政策決定者，あるいは用地買収などの裏方の人達が多数いたことを再認識させてくれることだろう。しかも，それらの人達のほうが世間の人の眼には，より重要な役割を果しているようにみえていることにも認識を新たにするだろう。ここで，ふとヒットラーのアウトバーンという言葉をおもいうかべた。

講談社刊，B 6 判・370 ページ，定価 580 円 （昭和 45 年 9 月刊）

出版案内

ほかに多数の関係図書をとりそろえております。総合図書目録を無料で送ります。ご希望の方は、読者Q1-9係までご請求ください。

森北出版
東京神田小川町3の10
Tel 03-292-2601（代）
振替東京34757

フローリンの 土質力学 全3巻
ベー・アー・フローリン原著
工学博士 赤井浩一 監修
理学博士 大草重康 訳編
●A5判
（I）¥2,000
（II）¥1,800
（III）¥1,800
全巻完結

世界的な理論家B.A.フローリンはゲルセバノフ理論を継承し、創造的に発展させ、その学問的成果を本全3巻中で系統的に展開させており、土関係者の必読の書といえよう。

主要目次 〈I巻〉土質力学の目的と発展／土に関する基本的概念／基本的な計算式モデル／構造物基礎地盤の応力状態／有限剛性構造物底面における反力／剛性構造物底面における応力 〈II巻〉構造物の最終変位／土中の気体分離と蒸発現象／粘性土の圧密現象の基本概念／土の2次元および3次元圧密問題／階差法による圧密問題の数値解 〈III巻〉土の極限つり合いの2次元問題の一般理論／基礎地盤および構造物の安定性／土のレオロジーモデルおよびクリープに関する基本概念

● 最新刊書

吊橋の振動解析 工博 猪瀬寧雄／工博 高田孝信 訳 B5／¥3,000
特殊構造物 全2冊 ●土木工学大成2・3 工博 神谷貞吉 編 菊／（I）¥1,800（II）¥2,000
構造力学 ●森北土木工学全書14 工博 伊藤 学 著 A5／¥1,400
応用弾性学 C.T.Wang／工博 猪瀬寧雄 訳 A5／¥2,500
埋設管設計法 工博 原田千三 編 A5／¥1,400
電磁波測距儀 須田教明 著 A5／¥1,700

各種構造物の耐震設計の基礎データとして最高の資料です

耐震工学
東京大学名誉教授 埼玉大学教授・工博 岡本舜三著
B5判 478頁・定価 5,500円 〒 200円

わが国は地震多発地帯にあって，ここに造られる構造物は，起こりうる地震に対して安全でなければならない．耐震工学はこの目的をみたす技術の研究を目ざしているが，比較的新しい学問なので体系的に記述された図書は非常に少ない．本書は，土木構造物の設計技術者のために基本的知識を体系的に組立て，正しい耐震設計をするために必要な，国内外の多くの大地震の記録や震害の実状等を詳しく示しながら，各種構造物の耐震設計について述べている．

日本列島大地震図譜
岡本舜三著
B4判250頁・定価5,000円 〒200円

ある地域に，過去にどのような大地震があったかということは，耐震構造物の設計を行なう技術者にとって重要な基礎データである．幸いにも，わが国には昔からの記録がよく保存されているので，いつ・どこで・どの程度の強さの地震があったかがよくわかっている．本書は，日本国内の236箇所の地点について，1600年から現在までおよそ370年間に，どの程度の強さの地震があったかを詳細にバーグラフで示されている．資料は特別な処理を加えていないほうが，技術者自身の判断を加えることができてかえって有用である関係上，本書ではなまの資料をそのまま示してある．

オーム社
101 東京都千代田区神田錦町3
振替東京20018＝電話(291)0912